

Y W V O B 会 会報 No.21

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2002年9月7日発行

[目次]

第1章 苗名小屋について……………1	第4章 活動報告と計画……………5
第2章 2003年度総会案内……………4	第5章 会員便り……………8
第3章 総務委員会からのお知らせ……………4	第6章 事務局より……………12

第1章 苗名小屋について

ワンダーフォーゲル部の一大財産である苗名小屋は、基本的には現役生主導の所有物ですが、少部員化による通常メンテナンスの困難化が深刻であり、その維持運営に当たってはOB会も大々的に協力するという約束がなされており、2000年より現役生・OB会共同の通常メンテナンス(毎年)を『20XX年リフレッシュ苗名小屋』、通称『R20XX』と称して行っているのはご存知の通りかと思えます。本年も3ページにありますように間もなく行われます。しかしこの愛すべき苗名小屋は加齢と共にこの通常メンテナンスだけでは維持できなくなってきており、有志(と申し上げておきましょう)によっていただいている改善作業にも限界があります。そこでOB会幹事会で話し合い小屋委員会の主導にてその現状を改めて詳しく調査し、その現状に対してどのような対策が可能なのかを検討して分かりやすく整理していただきました(大変だったと思えます)。今すぐどれかを実行するというのではなく、かと言って先延ばしする余裕はないので、現状を皆さんによりよく知っていただいた上に電子メールや総会、同期会で議論していただきたいです。現役生、小屋委員会、有志そして管理していただいている岡田さんをはじめ地元の方々のおかげで苗名小屋と周囲は現在改善されてきていますので、足の遠のいておられる方も是非訪れてその目で確かめてみて下さい。(幹事長29期禅知明)

苗名小屋の根本的改善(大屋根 全面張替等)と取組み課題について

OB 小屋委員長:笹倉 実(30期)

苗名小屋は築 30 年を越え、屋根の雨漏りが次第にひどくなりつつある。また凍土による影響で構造的に弱いブロック基礎にヒビが見られることから、将来にわたり小屋を維持するには外注工事による大屋根の全面的な張替と基礎の強化(DIY 工事など)または取換(外注工事など)を速やかに行う必要がある。

1. 屋根の現状

H11年に雨漏りと積雪による損傷が著しかった天窓屋根4箇所をスレート横葺カラー鉄板に張替えた(その他壁・控柱などの工事を含め約85万円の経費が生じ、現役小屋費と折半して実施)⁽¹⁾。しかし、大屋根全体は建設以来のトタン葺きのままであり、夏期定期的に塗装を行うなどのメンテは行ってきたものの、経年劣化が著しく既に限界である。また、雪降ろし時スコップでいためた(穴をあけた)ところもあるようである。下記写真に示す通り、雨漏りによる2Fの野地板や畳の傷みが進行している。さらに特に四方に伸びる斜めの構造部材である柱大張り付近は屋根の継ぎ目に当たるため、どこも雨水が漏っている状況である。小屋の屋根の構造は単純な切妻構造と異なり柱大張の継手板などから雨漏りしやすいタイプである。幸い柱の腐りは目視の範囲では、まだ見られないが、このまま放置すると腐りが生じ、建物として早晚致命的な状況になることが予想され、速やかな対処が必要である



屋根の状態

小屋の現状 (1)



雨漏りによる畳の損傷

小屋の現状 (2)

2. 基礎の現状

小屋の骨組みはしっかりしているが、基礎は昔のブロック基礎で構造的弱点があり、凍土による影響でヒビが生じている。今後も永く使用するには水進入防止をはかるとともに、この強化を行う必要がある。具体的には有志 DIY によるコンクリ打設補強策または、外注による基礎上げ工事策(ジャッキ・アップ)の対策が考えられる。



3. 外注経費と技術的な検討課題

屋根張替には DIY で対処は出来ず外注によらざるを得ない。表1のように幾つかの方式が考えられるが1例の見積りでは青柳礼次郎氏(岡田氏紹介による屋根職人)による縦筋無しの板厚 0.35mm のカラー鉄板平面仕上げで約 110 万円の試算がある。

(1) 屋根の材料の検討

現在の屋根はカラー鉄板だが、耐食屋根であれば腐食が進行せず塗装も不要になる。カラー鉄板は最初の 5 年ぐらいは特にメンテは必要ないが、その後は現行と同じく定期的な塗替えをする必要がある。しかし耐食屋根は単価が高いし、雪下ろしのスコップで痛めて穴をあけても補修と再塗装が難しいなどの欠点がある。

凍土作用による土膨張

(2) 屋根の種類・板厚

現在の大屋根は凸型屋根(瓦棒葺)だが、前回張替えた天窗屋根部分は縦葺から横葺スレートになった。最近の工事は横葺が一般的らしく工費も安い、雪下ろしやペンキ塗替え、補修のときに足場がとれにくく、また梯子の左右の固定も出来ないで今後のメンテ作業性で難点がある。このため現行と同じく瓦棒葺屋根方式も検討する。また、スコップからの傷、落雪の摺動もあるため、屋根板も薄いものを使わず、耐久性のあるものが望ましく今後検討を進める。なお、国立公園内では赤色屋根は本来不可で、ブラウン系に変更する予定である。

(3) 作業フックなど足場の作業確保

構造上可能なら、屋根作業性を考慮してザイルやはしごをとりつけやすいようなフックなどを作るなど検討することも価値があると考えられる(工事費節約のため屋根板を外したときに自分たちで作ることも一案である)。

(4) 基礎上げ

別の選択方法として、小屋をジャッキ工法により持ち上げ、基礎を分厚い鉄筋コンクリート壁とするやり方がある(文末写真参考)。新・京大ヒュッテのように軒高さを地上から 4~5m程度に高くして、屋根から完全に落雪させる方式であり、雪下ろしフリーの構造となる(現行は 2 月頃になると軒上まで雪が貯まり、落雪しなくなるので雪下ろしが必要)。この方式は費用が大きく異なるが、OB・現役で毎年 3~4 回、延べ人工 30 名以上で雪下ろしを行っており、外注で雪下ろしを行った場合は約 30 万円/日であることを考えると、検討する余地はあると考えられる。

表 1 小屋外注工事の候補の比較(おおざっぱな試算)

外注工事の種類		依頼業者(予定)	必要経費	備考	メンテ効果
大屋根工事のみ(基礎コンクリ補強工事は有志の DIY 再生プロジェクトによる)	横葺屋根(カラートタン)	青柳氏	110 万円 *見積済	雪下ろしは現行同様に必要。屋根上足場の確保に工夫が必要。費用最低	○~△
	瓦棒葺屋根(カラートタン)	青柳氏	110 万円+20~30 万程度と予想 *作業工数がやや増	雪下ろしは現行同様に必要。現行の大屋根は瓦棒葺	○
	耐食屋根(フッ素加工、ステレンレスなど)		150~200 万円 トタン素材費の 1.3~2 倍	屋根メンテが軽減するが補修は困難。雪下ろしは現行同様に必要だが、滑り易く作業性が悪くなる。	△
大屋根工事+基礎上げ工事(基礎は鉄筋コンクリート構造)		基礎上げ工事は建設業者(中電産業等)	300 万円~と予想 *小屋を 2~3M 程度ジャッキ・アップ	雪下ろしは不要 耐食屋根にすれば屋根メンテも不要 基礎構造も根本的に改善	◎

4. 小屋会計の現状と特別募金の必要性

今年度末(9月末)の実質残高は55万円の見込みであり、次年度の年次経費が今年度並みの45万(小屋再生プロジェクト、R2003、除雪経費(今年も外注除雪無しで自前作業を前提))で推移する予想や、将来の修繕留保分を考慮すると外注工事は特別募金などの資金確保によらざるを得ないことになる。

5. 小屋委員会の現状と今後

大まかな試算等を上記で示したが、完全な調査の結果ではない。小屋委員会の実働は1~3名程度であり、日頃多忙な社会人であることを考えると現行のリソース・体制では小屋再生の実現は不可能と考える。内容の規模及び性格から小屋メーリングリストの手段を通じ、OB 各世代多数の協力・情報連携と並行的行動が大前提となる。また特別募金を行うまでのプロセスとして小屋のあり方とともに、工事レベルの絞り込みと費用の積算、実施体制などを専門家を交えた工事技術Gを設立してゆだねて募金目標と実施計画を具体化する必要もある。また、外注工事の一方で週末DIYによる小屋改造・整備(小屋再生プロジェクト)も本年度から2年計画で独立したプロジェクト班により実施することも検討を始めている。

参考 (他大学の新小屋の屋根仕様例)

理科大 WV しじま小屋 ステンレス(全溶接)(平成14年着工)
京大笹ヶ峰ヒュッテ ステンレス(フッ素加工)(平成12年竣工)

再建経費は募金による約2000万円。いずれも建物基礎かさ上げによる完全落雪構造を前提(屋根が十分高い)としており、屋根雪下ろし作業は不要と見られる。この点が苗名小屋と状況が異なる。

右写真 京都大学笹ヶ峰ヒュッテ(同大HPより転載)

関連資料

- (1) 小屋修理報告:OB 小屋委員会資料、H11.08.07
(小屋委員会ML HPより入手可能)

ご意見等は YWV 小屋委メーリングリストまで。



R2002 へのお誘い

OB 小屋委員:後藤 誠史(39期)

今年もやります!リフレッシュ苗名小屋、通称 R2002。苗名小屋のリフレッシュ活動はもちろん、OBと現役、シニアと若手等々、交流を深めるということや、苗名小屋をより知ってもらおうという意味も込めて、イベント的な内容にしたいと思っています。メンテ作業は参加自由、夜からの参加も大歓迎です。時間にご都合のつく方、是非是非ご参加ください。

主催/実行: R2002 実行部隊・・・責任者:後藤(39)、石川(41)

期間: 2002年9月21日(土)~23日(月・祝)

場所: 妙高高原 YWV 苗名小屋

対象者: OB 会員、YWV 現役、部外協力者

参加費: なし(交通費は自己負担をお願いします)

主な内容: 下記参照(保守作業に参加していただける方は、作業しやすく汚れてもよい服装をご持参ください。)

大交歓会は苗名小屋裏にて大バーベキューパーティを予定

※ご意見・ご質問等は 39 期後藤(mag@remus.dti.ne.jp)までお願いします。

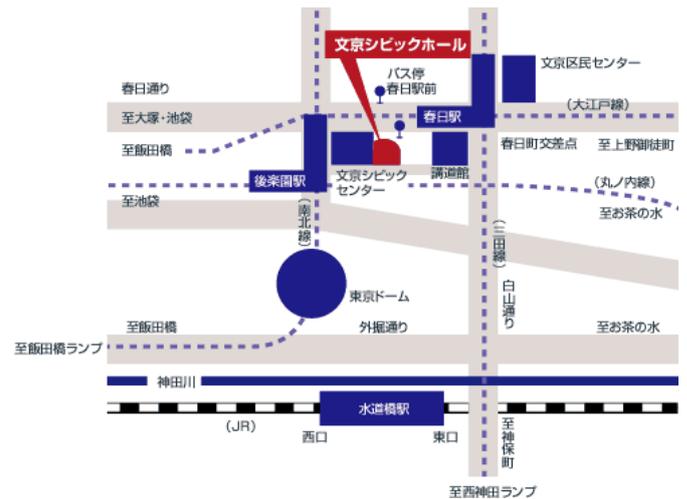
	AM	PM	メンテ内容
9/21(土)	10:00 苗名小屋集合 11:00 作業開始	17:00 作業終了~風呂タイム 19:00 頃~夕食	布団・畳干し、キジ汲み、ペンキ塗り、小屋大清掃、買い出し
9/22(日)	9:00 朝食~作業開始	17:00 作業終了~風呂タイム 19:00 頃~夕食(大交歓会)	ペンキ塗り、防腐剤塗り 草刈り
9/23(月・祝)	9:00 朝食~後片付け 12:00 解散		

第2章 2003年度総会案内

会長:嘉納 秀明(1期)

2003年度の総会につきましては、以下のとおり開催することとなりましたので、みなさまの参加をお待ちしております。総会参加の可否、議決の委任の有無については、同封のはがきにご記入のうえ、ご返信願います。

- 1.日時 2002年11月10日(日) 11:00-14:00
- 2.場所 文京シビックホール3F 会議室1・2
(電話:03-5803-1100、ホームページ:http://www.b-civichall.com/)
- 3.会費 2,000円(年会費等と一緒に振込み下さい)
- 4.交通 営団地下鉄丸ノ内線 後楽園駅 >>> 4b または 5番出口【徒歩0分】
営団地下鉄南北線 後楽園駅 >>> 5番出口【徒歩0分】
都営地下鉄三田線/大江戸線春日駅(文京シビックセンター)>>>文京シビックセンター連絡通路【徒歩0分】
JR 中央・総武線水道橋駅 >>> 【徒歩8分】
- 5.議題
 - ・新OBの承認について
 - ・会則の改正について
 - ・新規・改選役員の承認について
 - ・昨年度事業報告について
 - ・昨年度決算報告について
 - ・今年度事業計画について
 - ・今年度予算計画について
 - ・苗小小屋のあり方について
 - ・その他
- 6.備考 総会中に簡単な食事をお出しする予定です。



(文京シビックホール HP より抜粋)

第3章 総務委員会からのお知らせ

総務委員長:田村 顕洋(34期)

1.新役員の募集について

現在、OB会の幹事会事務は、シニアの方々と30期代の役員によって主に担われていますが、30期代というのは、ちょうど仕事や家庭の面でも、多忙を極める世代にあたり、幹事会にどうしても時間が割けないというケースが発生しています。従いまして、今後、重要なポストについては、正・副の2人を置き、どちらかが、役員の仕事ができなくなったとしても、もう一方でそれをカバーする体制を整えることで、幹事会事務の継続性・安定性を確保したいと思っております。

つきましては、以下の役員を新規に募集いたします。応募・お問い合わせ等は、総務委員会田村又は笠原までお願いします。なお、応募につきましては9月末までにご連絡ください。

また、以下の新規委員に限らず、幹事会の仕事に携わっていただける方を常時募集しておりますので、ご興味のある方は、ぜひご連絡ください。

【今回募集する新規役員】

会計幹事(副) 1名

名簿担当委員(副) 1名

会報編集担当委員(正・副) 各1名

2.会則の改正について

OB会会則につきましては、平成11年の大幅改正によって現行の形となっておりますが、今回新規に委員を設置すること、また、幹事会等一部の規定については、実態と乖離している条項があることから、今回の総会において、以下概要のとおり改正案を提案することとしています。なお、会則改正案の正文については、OB会 ML の共有フォルダーに置いてありますので、必要に応じ参照ください。また、これら改正について、ご意見・ご質問等ございましたら、田村までご連絡ください。

【主な修正内容】

1.新規役員の設置のための改正

2.会則の内容を現状に合わせるとともに、簡素化するための改正

第4章 活動報告と計画

シニアOB会月例登山への新たな試み —— 日光白根山山行記 ——

池原 盛彦(8期)

6月21日(金)会社終業チャイムが鳴ると同時に席を立ちいそいそと嬉しげに帰る私を見て「また山ですか？」と女性から冷やかしく羨望の入り混じった声がかかる。

シニアの月例山行ももう4年目、このところ毎回の参加者は40名を越えるようだ。今回は日光奥白根山、シニアの出席は少々減ることを想定しOB会若手にも声をかけた。また、4期郡司氏のユシロ時代の山仲間にも声をかけた。結果、今回の参加者はシニアOB会32名、若手OB会7名、ユシロレッキングクラブ(YTC)4名の合計43名という大所帯となったのみならず、最高齢者70歳、最若年者48歳と親子ほどの年齢差のパーティーとなったのである。

ところで日光奥白根山は交通不便な山地で日帰りでは朝の集合に無理がある。また標高差600mとはいえ2000mを越える高山での登攀は夜行日帰りではシニアには少々きつそうである。これまでの月例山行は3年前6月の土曜日前泊日曜日行動の浅草岳、昨年6月の金曜日夜発夜行日帰りの尾瀬を除いて全て日帰りである。日帰りであるとしても朝の集合時間が遅くなり10時に歩き始めるのがやっとという状態である。今回は金曜日退社後そのまま貸切バスで出発し途中半泊して土曜日早朝から行動し日曜日を休養日に当てるといった初めてのパターンとした。

この方式がうまく行くとシニアの体調を考慮しつつも行動範囲が俄然広くなるとともに勤めのある方も参加できることとなる。シニアに限らず若いOB会員を含めた全員参加型の月例山行開催にも有効なものとなる。

21日(金)は貸切バスで新宿駅を21時15分に出発し、24時吹割温泉に到着、入浴後半泊としたが、話しに花が咲いて2時過ぎまで寝なかった人もいたとか。

今回の月例では他にも初めての試みがある。40名を越すパーティーともなると対向登山者に多大な迷惑がかかりお互いいやな思いをするものである。そこで今回はパーティーを年長組と年少組に2分割した。行動中は年長組を先行とし、これに遅れること5分で年少組が続いた。登攀途中の休憩は約5分であるから年少組が追いつくと年長組が出発となる追い出し方式で年少組は苦勞せず20人分の休憩ポイントを確保できるという利点もある。

さて、翌22日(土)は少々不安定な天気である。丸沼高原のロープウェイ乗り場についたころから雷を伴う猛烈な雨となった。ロープウェイもしばらく運転を控えている。しかし待つこと30分ほどで空は晴れ上がり不安定ながら実に良い天気になった。早速一番でロープウェイに乗り山頂駅に向かう。山頂駅からの白根山の眺めは格別であった。雨上がりのきれいな青空に聳えた山頂付近にはうっすらと流れる雲がかかり実に幻想的な眺めであった。ここで早速記念写真を撮り山頂へと出発した。樹林帯を抜けたあたりでガスが立ち込め視界はなくなる。山頂で年長組、年少組別々に記念写真を撮り、風のあたらない山頂直下で昼食にする。

みんなが食べ終わったころ雨が落ちてきた。早々に片付け下山にかかる。避難小屋から五色沼を通過してロープウェイ山頂駅に戻るルートである。雲の切れ間から遥か下に覗く避難小屋周辺のダケカンバの若葉が実に美しい。五色沼で全員で記念写真。ロープウェイ山頂駅には15時着。宿に戻り一風呂浴びて17時、マイカーの池原と17期山下氏に別れを告げバスは帰路についた。途中沼田の漬物屋に寄り、道中渋滞もなく、新宿駅着は予定どおり20時10分だった。

皆さんお疲れさまでした。

[日時] 2002年6月21日(金)～22日(土) [天候] 晴のち雨

[行先] 日光白根山

[宿泊] 吹割温泉龍宮の湯

[参加者] 43名(シニア32、若手7、ユシロ4) [リーダー] 池原 盛彦(8期)

[コース] 新宿＝吹割温泉(半泊)＝丸沼高原++++山頂駅－白根山－五色沼－弥陀ヶ池－山頂駅++++丸沼高原＝吹割温泉(入浴)＝新宿



ゴンドラ山頂駅にて

第5回 OB 山行報告

山行委員：小野 恵美子(34期)

〔日 時〕 2002年8月24日(土)

〔行 先〕 那須茶臼岳

〔参加者〕 吉田(輝)[1]、嘉納[1]、嘉納夫人、吉野[2]、北見[2]、宮崎[2]、塚原[2]、白井[3]、腰塚[3]、塩谷[3]、江崎[3]、吉村[3]、泉[4]、大黒[4]、谷上[4]、斉藤(貞)[4]、広川(郡司[4]友人)、亀井(良)[5]、亀井(昭)[5]、高須夫人、桜井[6]、古荘[6]、原[6]、岡田(光)[6]、岡田(美)[6]、岡田令嬢、林[7]、松本[7]、古宮[7]、久保木[7]、服部[7]、井上[7]、松本[8]、安藤[11]、中島[15]、田村[34]、小野[34]

(計37名・敬称略・[]内数字は期)

第5回OB山行は、第41回シニアOB月例山行と合同という形で開催し、噴煙と硫黄の香りに包まれた那須茶臼岳に行って参りました。

雲行きの怪しい中、朝7時に東京駅に集合。貸切の大型バスに乗り込み一路那須茶臼岳山麓へ。途中雨も強くなりびしょ濡れの山歩きを覚悟しましたが、山に近づくにつれ空が明るくなり、青空も垣間見えるようになりました。バスを降り、11人乗りのロープウェイに乗って約4分で山頂駅に到着。ガスにまかれ幻想的な火山礫の斜面を登り、約40分でピーク着。広い旧火口を見ることができました。ピークで昼食をとり、元来たルートを下りる頃ガスが晴れ、お隣の朝日岳の雄姿も現れました。分岐まで下りて今度は茶臼岳を巻く形で緩やかな道を歩き、牛ヶ首、峰の茶屋跡へ。途中の無間地獄では、音をたててガスが湧くのが見られ、まさに山が生きているのを実感。ウラジロタデ、コメススキの群生が見られ、エゾリンドウの花も咲いていました。さらに下って、バスの待つ駐車場に到着。雨にあたることはなく、茶臼岳名物(?)の風もなく、実働約3時間の快適な山歩きを楽しみました。大丸温泉で汗を流して一息つき、お菓子の城でお土産を買い込んで帰路につきました。渋滞もなく夜8時前に東京に帰ってきました。



茶臼岳山頂にて

第6回 OB 山行のお知らせ

山行委員:小野 恵美子(34期)

6回目のOB山行は、箱根の明神ヶ岳を予定しています。皆様と冬の陽だまりの山歩きを楽しみたいと思います。世代を超えて、賑やかに山を歩けるのはOB山行ならではのものです。多数のご参加をお待ちしています。

- 〔日時〕 2002年12月7日(土)
- 〔集合〕 小田急線新松田駅改札口 9:00
- 〔行先〕 明神ヶ岳(1,169m) 地図:昭文社山と高原地図29 箱根
- 〔行程〕 新松田=(バス)=関本=(バス)=道了尊—明神ヶ岳—宮城野分岐—宮城野橋
(歩程4時間5分)
- 〔交通〕 新宿駅発 7:31→小田急線急行(小田原行き)80分→新松田駅 8:51
また小田原駅から大雄山電車で大雄山駅(駅前が関本バス停)(20分)で行く方法もあります。こちらのほうがご都合の良い方は、お申し出ください。
- 〔温泉〕 下山地に宮城野温泉があります。
- 〔参加費〕 500円(写真代等)
- 〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物
- 〔申込み〕 参加ご希望の方は11月20日(水)までに下記宛ご連絡ください。
小野恵美子(34期) 電話 042-335-7251 メール emiko150@nifty.com
山下暁(17期・第6回OB山行幹事) メール satoru_yamashita@agilent.com

第5章 会員便り

2 期同期会報告:山の辺の道

宮崎 紘(2 期)

昭和 37 年 2 月 3 日、大学卒業を前にして YWV2 期生 12 名が 0 時 10 分新宿発の夜行列車に乗っていた。甲府から桃の木鉱泉までバスに乗り、夜叉神峠から神々しいまでに真っ白な雪をかぶった白根三山を眺め、夜は吉野さんの司会で社会に巣立つ前の抱負などを語り明かした。このときの 12 名が、今名簿にある YWVOB 会 2 期生としてのメンバーである。それから丸 40 年、メンバーの大半は職を離れ、時間的ゆとりが出てきたところである。この中で、大阪にいる西村(旧姓倉田)さん以外は関東圏にいたので、秋の「シニア OB の集い」や月例 W で比較的最近は顔を合わせるが多くなっている。しかし残念ながら山行は、体調から行けないという人もあり、最近同期だけで年一回昼食会を開いている。ただ食べる飲むだけではということから、歴史道一筋の斎藤彦司さんのご案内で歴史博物館を見学したり、北条泰時ゆかりの史跡を訪ねたりと、相変わらず行動的文明批判の心は忘れていない。

さて、そんな昨年の昼食会で、来年は卒業 40 年を記念して 1 泊の同期会をという合意があり、目的地も奈良の「山の辺の道」を歩こうということに決めていた。できるだけ全員が参加しやすいようにと日程を調整し、4 月 16~17 日に決めた。16 日はオプションツアーとして「飛鳥」を斎藤先生の解説を聞きながら歩き、17 日は三輪神社から天理までという計画を北見さん、宮本さん、多田さんが作ってくれた。当日集まったのは、どうしても都合の悪い岩上、米屋、西村の 3 君以外の、総勢 9 名からの「奈良歴史散歩」となった。

16 日は JR 桜井駅に集合して、バスに乗り飛鳥の核心部「石舞台」へ、今は公園として整備された古墳石室の中まで入り、斎藤先生の解説に耳を傾けながら、6 世紀の昔にそれぞれ思いを馳せてた。石舞台から岡寺に向かう、ここでは石楠花とボタンがわれわれを歓迎してくれた。あでやかなボタンや石楠花と共にみんなでカメラに収まっていた。そこから酒船石、二年前に発掘された亀形石造物を見学し、伝板蓋宮跡遺構のレプリカの上で休憩して、本当に日本の田舎らしい風景を眺めながら田んぼ道を飛鳥寺へ、そして「入鹿の首塚」と言われる五輪塔などを見て、古代史を大きく動かした「大化の改新」はこの地が舞台であったことを思い出していた。

次に、奇祭で有名な飛鳥坐神社で変な石造物を眺め、最後に飛鳥資料館を見学した。ここでは、これも比較的最近発掘された山田寺の連子窓の遺構を見ることができた。そして宿

に向かい、飛鳥には何度も訪れているので散策をパスして大阪で西村さんと会ってきた宮本さん、悪天候を予測してパスした藤林さんと合流する。

夕食では思い出話に花を咲かせ、卒業以来 40 年、皆息災であることを喜び、年金のことなどが話題になる。孫のことが話題にならないのがこの期の特徴のようである。

急用ができた塚原さんは翌日早朝タクシーを呼んで慌しく発って行った。この日は朝からあいにくの曇天だったが、大神神社をスタートし狭井神社—玄賓庵—檜原神社と天理に向かって、近江遷都の際、額田王も歩いたであろう上つ道(山の辺の道)を歩く。

檜原神社の近くから大和三山(畝傍山、耳成山、香具山)が遠望できたが、しばらくすると雨が落ちてきた。途中景行天皇、崇神天皇など最大級の古墳群を見ながら、長岳寺へ。ここで三輪ソーメンと柿の葉ずしの昼食を頂く。その後雨が激しくなったため、途中勾田というところまでバスに乗り、ここでギブアップという某二人はそのまま天理を経て帰路へ。残る 6 人は石神神宮を参拝。天理教本部、ここは何時来ても異国にさ迷いこんだような感じがするが、この時も鐘の合図で町の人を含めて信者達が一斉に礼拝する中、エイリアンに等しい我々だけが多少戸惑いを感じながら歩いていた。

天理駅では JR を予約していた女性組と別れ、男性組は乗り換えなしの近鉄電車ですべて京都に向かう。

2 期 12 人衆はまだまだ気持ちは若く、この会の世話役も藤林さんから北見さんに交代、来年以降もユニークな企画がなされることを皆期待している。

【日 時】 2002 年 4 月 16 日~17 日

【目的地】 山の辺の道

【宿 泊】 国民年金健康保養センター「大和路」

【参加者】 藤林 宮崎、塚原、渡辺、斎藤、吉野、北見、多田、宮本



写真:岡寺にて

万葉歌に詠まれるユリは殆ど三輪山麓に咲くササユリだそうです。

私が住む近くの北摂箕面山中に咲いていますから、スケッチしたのを絵にしました。

1本の茎に1個の花をつけるのに七年かかり、それから1個ずつつけていく花で、群生しないと。箕面山中で6個つけたのを見ましたが、一般には三叉に分かれた3個の花が多いので、三枝祭をする山辺の北部の率川神社ではササユリの花を飾りますが、もともとは狭井神社の花鎮めの祭りで百合根と忍冬を供えることからが始まりらしいですよ。

大神神社の参道の左側斜面にササユリを植え込んでましたから、来年から沢山見られます。同期会に参加できなかったのを見て下さい(西村 郁代)



ササユリ(2期西村郁代さん描く)

5期同期会

諸角壮式(5期)

場 所 : 苗名小屋

日 時 : 2002年6月1-2日

参加者 : 5期 18名 中村、谷合、亀井、金子、羽島、向井、三宅、諸角(以上夫妻で参加)、高須夫人、矢島
その他 OB 5名 池原、笹倉、親跡、伊藤、後藤
現役 7名 志賀、他6名(多分) 計 30名

6月の開催は大成功でした。今年は雪が少なく、水バショウはハッピーが大きいだけでしたが、2輪草やエンレイ草、サンカヨウ、スマレが春の名残を留めていました。根曲がり竹のタケノコ、ワラビなど山菜も楽しみました。南側の雨戸の節穴は、シジウカラの巣です。子育ての最中でオジャマをしました。昨年当りから定年年令に達した5期は、昨年12月に横浜中華街で卒業以来初めての同期会を開催した。今回が2回目で上記が参加した。特記すべきは、佐世保から遠路はるばる矢島さん、卒業以来の再会を楽しむ方が何人かいました。次は高須夫人、高須さんはドクターストップで急に不参加で残念でしたが、ご夫人が参加くださりよい前例を作ってくれました。通常野郎の方が先にいなくなるので、この会を引き継いでくれるのは、女性ということになります。今後もご夫妻で参加し、顔なじみとなり続くようガンバッテください。初参加の三宅夫人、向井夫人の感想は？ 次回、穂高町の会にも参加となれば、今回は大成功と言うことになります。よろしく。会の中身はご想像通りで、諸角は腰が抜けて歩けなくなりました。

今回不参加だった方々も、ぜひ来年お目にかかりましょう。現役の皆さん、えらく気を使っていたいて恐縮しています。1日の夕方は小屋に来る時間を遅らし、2日朝は2階で我慢して寝ていてくれて5期の会話の場を増やしてくれました。皮肉じゃないよ。



後列左より：中村夫人、向井夫人、金子夫人、金子、谷合夫人、高須夫人、諸角夫人、羽島、羽島夫人
前列左より：中村、亀井、三宅、諸角、向井、矢島、亀井夫人、三宅夫人、谷合

香港山岳事情

香港日本人学校香港小 今井 忠男(7期)

香港・・・密集した高層ビル、道一杯の派手な看板、各種の中華料理にブランドのショッピング、二階建てバスに二階建て市街電車、中国と英国の文化の混合都市・・・

ま、これも確かに香港であるが、住んでみて分かった。香港は海も山も植物も野鳥も、海岸地形も田園地帯も、実に豊かな自然が驚くほど身近にある大都市なのである。そしておそらく、アジアの中で登山が楽しみとして大勢の市民生活の中に溶け込んでいる国は、この香港と日本だけではないだろうか。

160年前、阿片戦争に敗れた清朝政府は、平地もない岩山だらけのこの香港島など、英国にくれてやっても惜しくもなかったのである。おかげで今、我らの住む島の平坦部から二階建てバスに15分も揺られるとそこはもう山岳地帯となり、観光客で混み合うヴィクトリアピークでさえ、ちょっと離れると亜熱帯の樹林の中を歩くことになる。

元来が花崗岩の岩山で沢筋にはそれなりの巨木もあるが、表土が浅いため灌木と草が山々を覆い、見晴らしの良さは北アルプスの稜線を思わせる。先住の英国人達が丹念に付けた山道(トレイル)がどの頂上にも伸び、眼下にヴィクトリア湾や南シナ海の緑の海を見ながらの縦走は、急激に立ち上がる岩山のため標高600mでも高度感に満ちてスリリングである。野ボタンやラン科の花々も多く、日本とは明らかに違う植生の中を私も香港人や欧米人と共に楽しんで歩く。挨拶を交わすのは日本に同じだが、英語か広東語である。

問題は、なんといっても厳しい気温。木陰があろうと稜線の縦走路であろうと、6月から8月は頭の中が真っ白になる苛烈な暑さで、物好きだけが歩いている。ニス塗ったような亜熱帯の緑、濃い青空に巨大で真っ白な積乱雲が立ち上がる。暑さに山道にへたりこめば、乾いた岩の上に鼻先、顎の先、肘先から汗がしたたり落ちる。

もう一つは、香港では特別の箇所以外には沢の水は飲めない。清潔な沢の流れを渡ってというコースは滅多にない。そして気を付けるべきは、時として沢筋に住む毒蛇である。まだ遭ったことはないが、代表格のコブラなど自信があるのか、石を投げたぐらいでは退かないらしい。野猿、野犬、野牛(野良牛)にはよく出会うが日本よりおとなしい。

こんな山にも、1942年に侵攻した日本軍を迎え撃った英軍の砲台跡やトーチカが草に埋もれている。夏草の廃墟に立てば、暑く重苦しい空気が漂う。我が校の直ぐ上の峠は、香港での最後の激戦地となった重要地点で、ここをとられて英軍は降伏した。そんなこともみな遠い彼方で、本校でも日英の先生が仲良く汗を流している。

複雑に入り組んだ沿岸の香港のトレイルは海際を通ることも多いが、特に香港北西部には、ここが香港とは誰も信じられない美しさで、エメラルドグリーンの手つかずの海が広がる。職場やなかよしグループで船をチャーターすると1日楽しめるだろう。海と山の両方を楽しみたい者は水着で山歩きすればよいが、相当の体力を要する。海水浴場以外での遊泳は時として三角の鱭を持った奴がいるので要注意である。この数年は事故なしだが、ふかひれの美味しい国でそいつに喰われてはたまらない。

下山後の汗まみれには英国風アフタヌンティーでなく、B級、C級の中華レストランが最高。水槽の中のエビやシャコを選び、くわえ煙草のおじさんが強火で作る海鮮料理に、ギンギンに冷えたチンタオビーアが、干上がった細胞の隅々まで浸透していく・・・。

・・・どうですか、普通の観光に半日だけ山歩きを計画して香港にお見えになりませんか。1期の大先輩であろうが初対面の現役であろうがお好みに応じた御案内を致します。香港も返還前の猥雑さが減少し、清潔で綺麗で健全になって寂しいです。とはいえ、早いもので私の任期もあと半年となりました。



YWV OB 各期たより(22 期の巻)

寺島 一希(22 期)

7月下旬に我々が22期のエンターテナーである津江から連絡が入った。「今年は2002年で2が二つ並んだ。OB会報の各期だよりは22期に決まった。テラよ、一筆頼む！」とのことであった。いつも同期会の幹事役を率先して引き受ける彼からの頼みでもあり、何となく引き受けたものの、諸先輩各期のように同期での山行など組織だった活動をしている訳でもなく、せめてもの活動と言ったら、年に1~2回ほど皆で集まって一杯やること位である。数年前には、一時帰国した佐藤を囲んで、皆も子供同伴で会食をしたことを記憶している。また、「たくぎん破綻」時には、「中丸氏を励ます会」を開催したこともあった。天性の明るさ(?)を持つ彼に、集まった我々の方が返って励まされたことを覚えている。

至近では今夏の8月2日に、現役時代の行きつけの店、横浜西口の「助さん」に集合した。敢えてこじつけた名目は“卒業20周年記念同期会”である。そこにはスペシャルゲストとして、我々が先輩の横溝さん(21期)もお招きし、男10名(横溝さん、浅沼、津江、中丸、成島、橋岡、松田、山崎、23期の根岸と小生)、女4名(谷内、成田、山田、渡辺)で盛大に開催した。20年もの歳月からか、見かけは多少変わったが、宴会での盛り上がり方(そしてボケとツッコミの役割分担?)は、相変わらず昔ながらの雰囲気であった。

それからもうひとつ、ささやかながら活動をご紹介したい。昨年、今年と2年連続で冬の苗名小屋の雪降ろしに参加した。我が期で参加したのは鴨志田、津江と小生の3人である。往復は新幹線と決めている。理由は酒が飲めること。なんと往路から酩酊状態である。今年の冬には23期の根岸や24期の岡田も巻き添えにした。OB小屋活動についての20期代の参加が望まれているとも聞く。来年こそはもっと参加人数を募って一大勢力を編成したい。40歳代中盤は兎角、仕事でも家庭でも忙しい時期でもある。週末に独り抜け出して勝手に山小屋に行けるのは、前述の3名ぐらいかも知れない。その問題をクリアする為には、やはりご家族同伴で来てもらうようにすることか。しかしワングルを知らない奥さんや子供達に、ただ「小屋に行ってみないか」と言っても説得力は薄かろう。何かプレミアを乗せたいものだ。例えば「お父さん達が現役時代の芸を披露するから来ないか」ではどうか。それではかえって誰も来なくなるかな。何か妙案はないものか。

OB会報の原稿を書きながら、20数年前の苗名小屋での宴会、そして芸達者だった同期の顔を思い浮かべ、つい思い出し笑いをしてしまったところである。

(敬称略、女性は旧姓にて記載)

今年の夏はスイスに行きました。スイスといえばスイス・アルプス。トレッキング天国。ですが私の場合、2回目のスイス旅行だったにもかかわらず、今回もトレッキングができませんでした。

前回は10年程前。大学の卒業旅行と銘打って卒業式間際の旅でした。スイス・アルプスはもちろん雪の中。マッター・ホルンを見ながらスキーをしつつ、「いつの日か夏に来て、トレッキングがしたいなあ。」と夢をふくらませました。

今回は夏でした。でも4歳の長男がいる上、私自身は妊娠中……。YWV出身の夫がちょこちょこトレッキングを楽しんでいるのを尻目に、「アイガー、ユングフラウ・ヨッホを見られただけ幸せ。」と自分を納得させていました。

子どもができると、やはり今まで通りにはトレッキングできません。でも、それでもアウトドアを楽しみたい場合、みなさんどうしていらっしゃるでしょうか？

0歳の頃はもっぱらオートキャンプ。「首がすわればキャンプはできる！」という先輩のお言葉に勇気づけられ、生後4ヶ月くらいから連れて行って行ってみました。オートキャンプなら何でも持って行かれます。アウトドア用品店に行って探してみると、フリースおくるみ等、子ども用品が意外とありました。暑さ、寒さ対策さえ工夫すれば、何とかできるものだと思います。

ショイコに乗っている間はおとなしかった2歳頃までは、軽いハイキングを楽しみました。ただ、ショイコから降りるとチョコチョコ危ない場所に行ってしまうし、荷物も子どもの体重分増え、テント泊はハード。そこで目を海に向け、夫婦交代でダイビングに行き、居残り組が浜辺でパチャパチャ遊びながら子守等もしてみました。

さて、現在長男は4歳。自分でだいぶ歩けるようになりました。4歳の子と西穂高岳に行った同僚もいます。ヨシ！と思ったところで二人目を妊娠。哀れ今回のスイス旅行は「見るだけ」となりました。ロープウェイや登山鉄道で登った山の中腹に、ヤギが居たり滑り台があったりと、子連れにはありがたい演出を施してくれるお国だったので、楽しめましたが……。

仕事と家事・育児に追われつつ、いかに快適にアウトドアを楽しむかを思案する日々。これもまた、楽しいですね。そして自然はやっぱり素晴らしい。

子育てしながらのアウトドア、みなさんどうしていらっしゃるでしょうか？

6章 事務局より

2002 年度寄付明細

会計幹事

今年度は、一般寄付と小屋寄付に区分してお願いしました。どちらにも印をつけられなかった方の分はそれぞれ半分ずつとします。02年6月30日現在、下記107名と2組の方々から合計860,510円のご寄付を頂きました。ありがとうございました。

期	氏名	一般寄付	小屋寄付	共通寄付	計	期	氏名	一般寄付	小屋寄付	共通寄付	計
5	5期 一同		51,010		51,010	5	諸角 壮弼		5,000		5,000
1	佐藤 文雄		50,000		50,000	5	諸角 絢子		5,000		5,000
8	綾部 和子		50,000		50,000	5	羽島 継男		5,000		5,000
20	20期 一同		30,000		30,000	6	永井 紀子		5,000		5,000
1	匿名	10,000	10,000		20,000	7	久保木克子			5,000	5,000
2	渡辺 一良			20,000	20,000	7	古宮智津子			5,000	5,000
5	向井 久弥		20,000		20,000	7	南雲 和江	5,000		0	5,000
14	狩野 一子		18,000		18,000	8	平沼 茂		5,000		5,000
29	禅 知明	5,500	12,000	0	17,500	8	岩科 健一		5,000		5,000
1	望月 元雄		10,000	5,000	15,000	9	鈴木弥栄男			5,000	5,000
2	北見美智子			10,000	10,000	15	西浦 章予		5,000		5,000
2	吉野大次郎	5,000	5,000		10,000	16	板垣 雅訓			5,000	5,000
2	塚原伸一郎	5,000	5,000		10,000	17	渡辺 雅子		5,000		5,000
2	宮崎 紘			10,000	10,000	18	向井 良作			5,000	5,000
3	塩谷佐紀子			10,000	10,000	18	植草 慶一			5,000	5,000
5	矢島 拓自			10,000	10,000	20	作山 栄一		5,000		5,000
5	金子 洋吾		10,000		10,000	22	嶋志田岳志		5,000		5,000
6	菅谷 光雄			10,000	10,000	30	竹沢 智		5,000		5,000
7	松本 弘道		10,000		10,000	35	曾根 康博			5,000	5,000
8	佐木 誠夫		10,000	0	10,000	3	井上 肇			4,000	4,000
8	松本真理子		10,000		10,000	12	榎本 吉夫		0	4,000	4,000
8	田中 稔		10,000		10,000	2	岩上 克尚		3,000		3,000
8	畑中 誠			10,000	10,000	4	郡司 直樹		3,000		3,000
8	池原 盛彦		10,000		10,000	7	細田 隆			3,000	3,000
8	武藤 直子		10,000		10,000	8	須藤 昌博			3,000	3,000
11	櫻井 健一		10,000		10,000	8	溝田 隆之			3,000	3,000
12	山川 隆		10,000		10,000	10	下村 蓉子			3,000	3,000
12	左藤 清		10,000		10,000	13	海保 茂道			3,000	3,000
14	上野 節子			10,000	10,000	14	鈴木 道夫		3,000		3,000
18	山口 貢三			10,000	10,000	17	葛窪真紀子			3,000	3,000
25	永田 武			10,000	10,000	30	安本 健一			3,000	3,000
29	松本 和之			10,000	10,000	34	田村 顕洋	3,000			3,000
31	伊藤 明弘		10,000		10,000	8	小出 繁信			2,500	2,500
32	藤森 潤子		10,000		10,000	9	三浦煌太郎	2,500			2,500
33	福島 弘之			10,000	10,000	22	寺島 一希		2,500		2,500
33	合掌 顕		10,000		10,000	22	寺島美佐緒		2,500		2,500
34	小野恵美子		10,000		10,000	1	桑原 忠雄		2,000		2,000
8	早坂 宗		9,500		9,500	3	渡辺 享英			2,000	2,000
5	亀井 良英		7,500	1,000	8,500	10	山本 紀子			2,000	2,000
5	亀井 昭子		7,500	1,000	8,500	14	吉田 忠			2,000	2,000
2	米屋 勝利			8,000	8,000	15	牛窪 肖			2,000	2,000
5	中村 義勝		8,000		8,000	16	池谷 文明			2,000	2,000
5	中村 栄子		8,000		8,000	33	藤井謙一郎	2,000			2,000
6	近藤 博昭			8,000	8,000	35	土方 康裕			2,000	2,000
19	林 厚子		8,000		8,000	3	平林 茂			1,500	1,500

30	下出 直孝			8,000	8,000	8	岩科 健一			1,500	1,500
5	谷合 成人		5,000	2,500	7,500	6	松本 君子			1,000	1,000
14	小口 雄平		7,500		7,500	6	古荘 敏子			1,000	1,000
30	笹倉 実	1,000	5,000		6,000	19	笹木 久栄			1,000	1,000
9	日渡 松男		5,500		5,500	19	石井 啓介			1,000	1,000
2	西村 育代	2,500	2,500		5,000	29	福島 昌彦			1,000	1,000
3	森井 栄子		2,000	3,000	5,000	30	田中 隆一			1,000	1,000
4	谷上 俊三			5,000	5,000	33	原 倫江			1,000	1,000
4	原 隆子			5,000	5,000	34	親跡 冬樹			1,000	1,000
4	斎藤 伸一		5,000	0	5,000						
小計		29,000	482,010	176,500	687,510	小計		7,500	76,000	89,500	173,000
						計		36,500	558,010	266,000	860,510
						按分		169,500	691,010		860,510

2002 年度前納会費納入者

会計幹事

今年度前納会費を納入された方は 2002 年 6 月 30 日現在下記の 52 名です。

今年、年会費と前納会費の両方を納められた方(◎印)は 2003～08 年分とし、昨年に続いて前納会費を納められた方(○印)は 2007～12 年分とします。無印は 02-07 年分です。

期	氏名	備考	期	氏名	備考
1	吉田 輝義	○	8	畑中 誠	
1	松本 正雄	○	8	池原 盛彦	
1	田上 栄一	○	9	日渡 松男	
1	桑原 忠雄		10	山本 紀子	
3	白井 信行		11	丹羽 守裕	
3	前田みどり		11	中林 康明	
4	大黒美代子		11	桜井 謙一	
4	原 隆子		12	榎本 吉夫	
5	矢島 拓自		12	左藤 清	
5	諸角 壮弼		13	太田 繁信	
5	諸角 絢子		14	吉田 忠	
5	片江 英巳		14	高木 展郎	
6	近藤 博昭		16	池谷 文明	◎
6	菅谷 光雄		16	板垣 雅訓	○
6	鈴木 浩		17	葛窪真紀子	
7	山田 信吾		18	植草 慶一	
7	久保木克子		18	山口 貢三	
7	南雲 和江		19	小松 真弓	
7	鈴木 正		25	永田 武	◎
7	能地 尚文		25	柏木 修一	
7	今井 忠男		29	禅 知明	
7	林 誠一		30	藤森 朝詩	
7	井上 義雄		30	荒木 伸一	
7	白神 逸夫		31	伊藤 明弘	
8	佐木 誠夫		32	藤森 潤子	
8	綾部 和子	○	35	土方 康裕	◎

◎03～08 年分
○07～12 年分
無印 02～07 年分

この会報に同封いたしました払込取扱票は年会費、前納会費、総会会費、寄付等をお振込みいただく用紙です。取扱いは全国の郵便局です。本局ではこの払込取扱票を直接機械にかけられますし、夜は8時まで、土日も稼働しておりますので早めのお振込みをお願いいたします。

- 年会費:2,000円(2002年10月から始まる2003年度の会費)
(宛名ラベルに納入済とある方は納入の必要はありません)
- 前納会費:10,000円(2003年度～2008年度の6年間の年会費前納分)
- 総会参加費:2,000円(総会参加者のみ)
- 寄付金:(小屋、一般)どちらかに○をつけて
- 最新名簿代金:500円(郵送希望者のみ)

なお、払込取扱票を紛失した場合は、郵便局で用紙を貰い、下記番号と加入者名を記入してお振込みください。

口座番号：00290-3-2419
加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

会報のインターネット経路による配信について

総務委員会では、会報20号より試験的に、Eメールアドレスをお持ちの会員の皆様に対してインターネット経路のOB会報配信を行っております。

インターネット経路の配信とは、新たな会報が発行されるごとに会員の皆様にEメールが届き、このEメールに記載されたアドレスをクリックするだけで、インターネット上にある会報配信用ページから最新の会報を手に入れることができる、というものです。通常の郵送で配送される会報は白黒二色刷りですが、このインターネット配信の会報はカラー写真によって構成されており、山行記録の写真も鮮やかな形でご覧頂くことができます。また、この会報配信ページには会報20号からのバックナンバーが揃えられる予定であり、このバックナンバーは会報配信用ページからいつでも入手することが可能です。

こうしたメリットに加え、インターネット経路の配信は通信費用の節減のためにも有効な手段となります。今後、メールアドレスをお持ちの会員の皆様には是非ともインターネット経路での配信にご協力頂きたく、ここにお知らせ申し上げます。

なお、会報20号が未だに届いていない方、あるいはメールアドレスをお持ちでも従来通りの郵送形式をご希望の方は、お手数ですが笠原(kasahara@ma3.justnet.ne.jp)までご連絡下さいますようお願い致します。

YWVOB会 会報21号

2002年9月7日発行

発行行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

発行責任者：嘉納 秀明(1期)

編集責任者：後藤 誠史(39期)

Tel: 042-328-4523 / E-mail: mag@remus.dti.ne.jp